

# 「多摩区の魅力いきいき部会」審議経過

これまでに出された意見(第1回部会検討内容)			課題・考えられる取組等(第2・3回部会)	課題の整理(第3回部会の検討内容)	今後の取組	
■多摩区の魅力について	●多摩区の伝統文化・芸能の継承	○多摩川音頭や菅の獅子舞を多くの人に知ってもらいたい	多摩川音頭の歌詞には、地元の名所や史跡のことが唄われている。このため、子どもたちに多摩区の歴史などを学んでもらうものとして良い。 多摩川音頭を区内の駅の発車ベルに使ってもらったら良いと思う。 菅地区に獅子舞があるが、これも多摩区の資源である。高齢者は獅子舞の練習をしているが、若い人にはあまり知られていない。	○多摩川音頭を小学生に知ってもらえる取組が必要である。 ○区内で開催されるイベント情報などを区民に知らせる方法を検討する必要がある。 ○多摩川音頭等を伝える側も高齢化が進みいつまでできるかわからない。後継者問題がある。 ○多摩川音頭に関わる団体だけでなく、他の団体(例:多摩区まちづくり協議会等)との連携をしたい。 ○区内の小中学校へのPRをしたい。	○多摩区の伝統文化を後世に伝える方法や伝える担い手を考える必要がある。	⇒地域振興課では、多摩区の魅力を活かした取組として、「観光振興・タウンセールス事業」などに取り組んでいる。新たに「ピクニックタウン構想」などの取組が検討されているので、地域振興課の取組内容を把握したうえで、どのようなことができそうかを考える。(3月16日に勉強会を開催)
		○子どもが多摩区の伝統文化に接する機会をつくる	子どもが多摩区の伝統文化と接する機会をすることにより、地元への愛着が生まれ、大人になっても多摩区に住もうと思うのではないかと。 多摩区の伝統文化として、多摩川音頭、菅の獅子舞、多摩川梨、のらぼう菜などが挙げられる。			
	●多摩区の魅力の掘り起し、アピール	○区には魅力がたくさんあるが、うまくアピールできていないことが課題	多摩区には自然的な魅力、文化的な魅力など多種多様な魅力資源が点在している。また、都心から近いこともあり、住みやすい。しかし、これらを広くアピールできていない。 多摩区内の魅力ネットワーク化してアピールすることが重要だと思う。	○多摩区の魅力をつなぐものを検討する ○区内で開催されるイベント情報などを区民に知らせる方法を検討する。 ○多摩区の魅力なぜアピールできていないか原因を把握する。 ○多摩区は、住みやすい環境と言える。これを上手にアピールする。そうすれば、多摩区外から多摩区へ住みに来る。 ○区内の観光スポットに行きたいと思わせる付加価値をつける。(たとえば、テーマ性のある回遊コースやグルメ等) ○多摩区全体に藤子・F・不二雄の作品を活かせるようにする。	○多摩区には(なり得るものも含めて)魅力がたくさんあるが、うまくアピール、もしくは活かすことができていない。 ○なぜうまくアピールできていないのかを把握する必要がある。 ○多摩区に区外の人に来てたいと思わせるものがあるのか把握する必要がある。 ○集客ではなく住みよいまちづくりを考える必要がある。住みよいまちづくりを考えたうえで、区外の人にいかに来てもらうかを検討する必要がある。	
		○生田緑地は指定管理者制度を導入してから良くなった	生田緑地は、指定管理者制度を導入してから緑地を一体的に管理できるようになり、使いやすくなった。 指定管理団体だけでなく、生田緑地のボランティアの存在も大きい。			
		○区の魅力を明確にする必要がある。	区民自体が多摩区の魅力あまり知らない。まずは区民から知ってもらうことが大事だと思う。 多摩区の魅力はいろいろあるが、みんなが共有しているわけではない。このため、魅力を共有することが重要だと思う。 多摩区は魅力がたくさんあるということと、その魅力を明確にしてどう活かしていくのか検討する、深める必要がある。			
○区の魅力掘り起こし区外に発信する	これまでにたくさんの多摩区の魅力が出されているが、多摩区の魅力を外に発信することが大事ように思える。					
●多摩区の玄関口をきれいにする	○区の入出口として駅前の景観をきれいにする必要がある	今の区内の駅前、雑然とした状況なのでなんとかしたい。登戸駅や向ヶ丘遊園駅は、多摩区の玄関なので、きれいな景観にする必要がある。 区画整理が終わらないときれいにならないと言われていたが、できそうなことから始めることが大事である。	○登戸駅、向ヶ丘遊園駅の景観整備を考えるためには、区画整理の整備内容やスケジュールを知る必要がある。(2月13日に「登戸土地区画整理事業」勉強会を開催)	○区画整理事業のスケジュールを踏まえて、景観づくりを考える必要がある。	⇒区画整理事業自体の内容や整備スケジュールに関することについては審議テーマとして設定しにくい、事業用地の仮囲いなどについて、景観に配慮した暫定利活用のあり方を検討するなど、審議の余地はあるのではないかと。	
■若者世代の流入・定住について	○子育ての支援が重要である	多摩区は将来市内で最初に人口のピークを迎えると言われているため、若い世代が定住するしくみを作る必要がある。その一つの方法として、子育て世代の応援が必要だと思う。 他都市の事例で空き家を子育て世代へ貸すという施策がある。特にシングルマザーなどに空き家を安く貸せるような支援がある。多摩区でできないか。	○多摩区は、子育てに熱心な区であることをもってアピールする。多摩区の良いところをアピールすることによって、若い世代が住むようになる。 ○子育てに熱心な区であることをインターネットを活用してアピールする。そのためには、コンテンツを作成する必要がある。	○子育てしやすいまちということを、効果的にアピールする方法を検討する必要がある。 ○住みやすいまちとは、どのようなまちなのか考える必要がある。	⇒若い世代の定住を促す要素として、「住み続けたい」と思わせるものは何かということに着目する。単独の審議テーマではなく、他のテーマに活かしていく。	
■自転車のモラル・マナーについて	○自転車の駐輪や走行のマナー・モラルがあまりよくない	交通に関するモラル・マナーがあまり良くない。特に自転車は放置の問題や携帯・スマートフォンを見ながら運転する人が見られるなど、モラル・マナーはあまり良くない。この問題についても何らかの形で良くしたい。	○スマートフォンなどを見ながらの運転をしないように訴える。 ○子どもに比べ高齢者の方が、自転車の乗り方のマナーが悪いので、高齢者向けにアピールする。	○自転車のマナー・モラルを考えるためには、交通規則や道路構造が関わってくる。 ○第3期でも審議されている。	⇒道路の構造や交通に関する法律に関わる部分については審議テーマとして設定しにくい。	